

05 活用用途

・介護予防通所介護（介護予防デイケア）

真人町は高齢化が進む地域であり、アンケートの回答者のほとんどが高齢者、また、地域に必要な施設に介護施設が一定数見られたことから介護予防を主としたデイケアサービスを行う。

・高齢者サロン

真人町の中には「真人ふれあい館」、「干三公民館」があるが、実際に真人ふれあい館に訪ねた際は職員が1人のみで地域の人はいなかった。そのため、地域の人に向けた開けた拠点が必要と考え、高齢者サロンとして気軽に利用できる空間を提供する。

・給食レストラン

アンケートの自由記述に給食について複数記述されており、給食が始まった頃の思い出が強く残っていた。給食はほとんどの人が経験し懐かしいと感じると考え、すべての年齢層をターゲットにする。また、給食レストランの空間は木造校舎のような内装にし、高齢者には当時の懐かしさを、若者には新鮮な気持ちにさせる。

・直売所・土産屋

真人町で栽培された野菜や、雪室野菜、真人米、豆ノ助の豆腐などをメインに小千谷市にゆかりのあるものを販売する。観光客だけでなく地域の人が普段から使えるような店にする事で、買い物弱者を助ける役割を果たす。

・おにぎり専門店

アンケートの自由記述で一番見られたものが真人米に関する事であり、とにかくおいしいお米だと褒めた。そのため1個単位で気軽に食べることの出来るおにぎりを専門店として設置することで、真人米を促める。

・工房

真人町は小千谷縮の生産を行っていた地域であることから、織物をメインとしたワークショップを行う。

・日本酒バー

新潟県は日本酒蔵の数と消費量が日本1位で、小千谷市内にも古くからの酒蔵が存在するため大人が楽しめるバーを設置する。日本酒だけでなく甘酒を使ったカクテルなども提供する事でお酒が飲めない人でも楽しめる空間にする。

・酒屋

日本酒バーで飲んだ日本酒を家でも飲めるように、また、運転でバーに行けない人にも新潟県産の日本酒を楽しんでもらえるよう酒屋を設置する。新潟銘醸と高の井酒造の日本酒を中心に県内の日本酒を販売する。

・雪室

真人町は降雪量の多い地域のため体育館の一部を雪室として設置し雪を有効活用する。約1000tの雪を溜め年間利用する。雪室には米、野菜、肉を貯蔵し熟成させる。

・雪室レストラン

雪室で貯蔵、熟成させた野菜、肉などを使った料理を提供する。

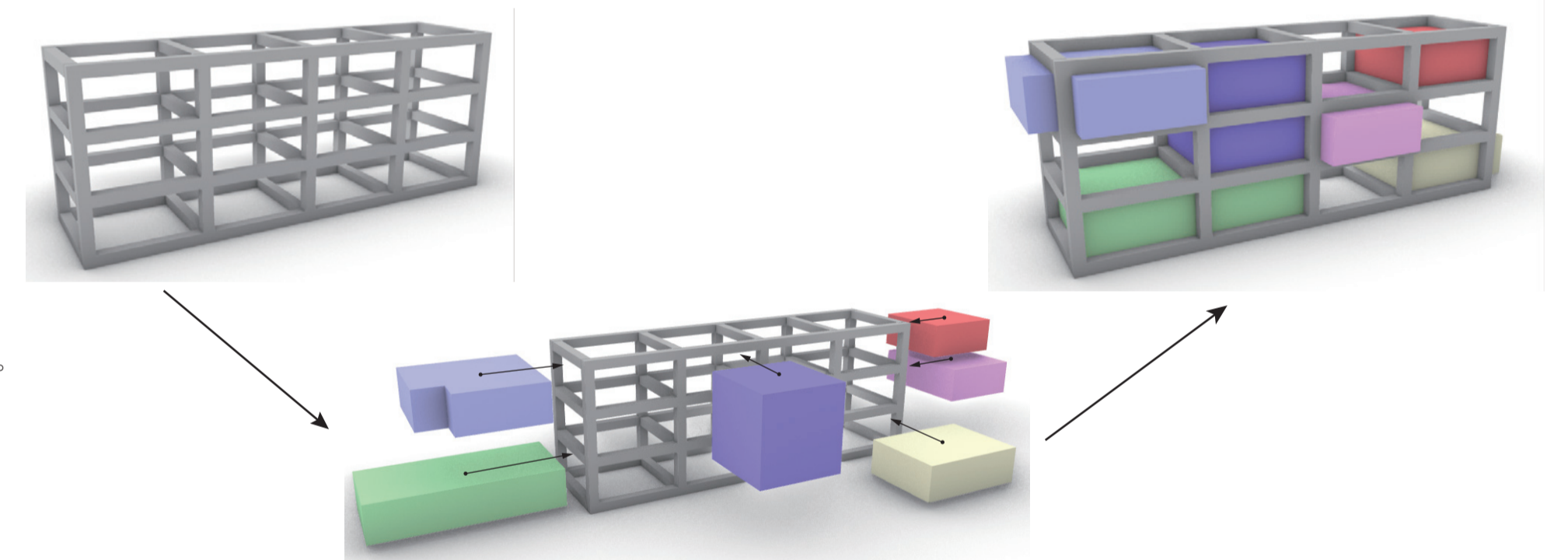
・太陽光発電

真人小学校にはプールがあるため、プールに水をため小規模であるが、太陽光発電として活用する。太陽光パネルは熱に弱いが、水面の冷却効果により発電効率が高くなる。ここで発電した電気を施設に活用する。



06 設計概要

スケルトンインフィルを採用し決まったフレームに自由に矩形をはめていくように設計した。矩形の大きさはバラバラでフレームの枠を少しはみ出させたところを作り変化を付けた。真人町は自然豊かな地域のため大きく壁面を切りとり外の景色を意識する必要なく視野に入るようにした。また、ガラス張りにする事で、実際には凹みはないが凹んでいるように見せ、学校全体がバラバラなブロックが積み上げられたような形を作った。元々の学校の部分も残し、給食レストランのように木造校舎を思わせる内装を作り、今と昔のハイブリッドな施設にした。敷地が広いので駐車場を広く設け約100台駐車可能にした。冬期は雪が多く降るため雪よけのために駐車場には屋根を設けた。駐車場の奥には受水槽を複数設け、プール、駐車場の屋根ガラスには埋込型の太陽光パネルを設置した。介護予防施設には入浴設備も備え、雪室に食料も貯蔵されていることから、災害時にも対応出来るような施設にした。



07 1階



・介護予防通所介護（介護予防デイサービス）とは

食事、入浴、その他必要な日常生活上の支援や機能訓練などを日帰り提供し、利用者の心身機能の維持向上と、利用者の家族負担の軽減を図る。要介護状態になることをできる限り防ぐ、あるいは状態が悪化しないようにすることが目的である。高齢者の有する能力に応じ自立した生活を営むことが出来るよう支援する。

・利用対象者

要支援1、2の認定を受けた方。自己負担額は増えるが、要支援の認定を受けていない方も利用可。

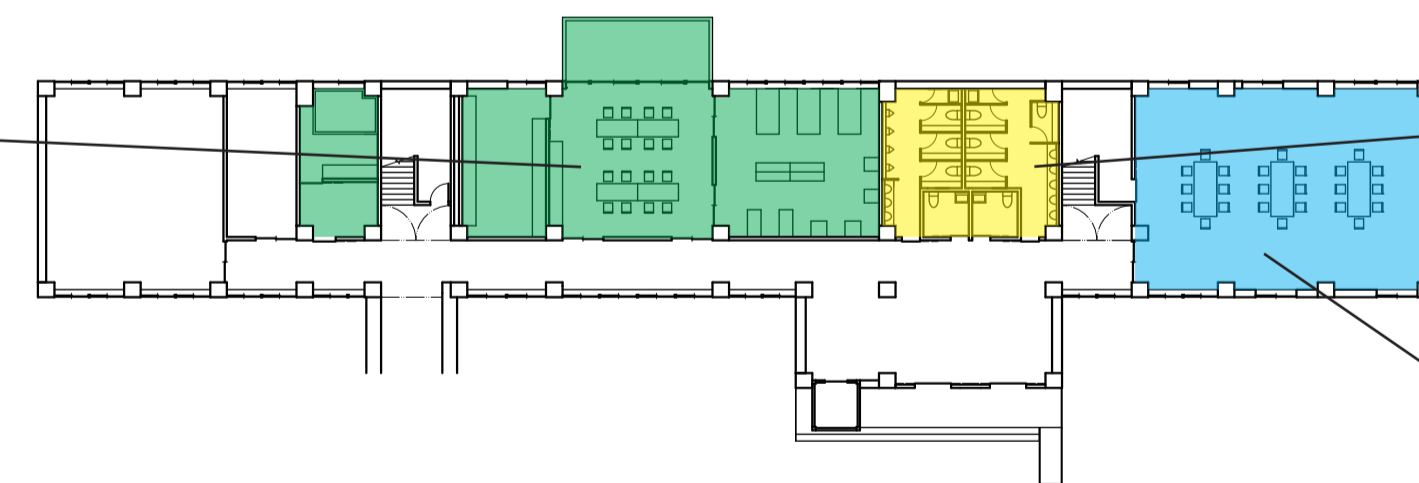
・利用定員

15人

・サービス内容

食事、入浴、排泄の介護
健康管理
日常生活動作訓練
レクリエーション

食堂は木のぬくもりと、外の景色を広く見ることが出来るような空間にした。トレーニングルームは食堂からつなげ廊下を動線をスムーズにした。風呂は2人同時に入れる広さにした。



・トイレ

この施設は高齢者も多く利用するため、全エリア多目的トイレ以外にも1,200×1,800と広めに設計した。すべてのトイレに音姫を導入し、排泄音を聞こえにくくする。女性トイレは、洗面台をなるべく多く設置し、化粧、見繕いなどをするためのスペースを確保した。安心、清潔、居心地、使い心地の良いトイレにすることで、施設の利用を豊かにする。

・高齢者サロンとは

1994年から全国社会福祉協議会が中心となり、高齢者がいきいきと暮らすための地域の活動の場として「ふれあい・いきいきサロン」事業が全国的に推進されている。高齢者の集いの場である高齢者サロンは、地域住民が主体となって運営参加を行い、高齢者であれば誰でも参加できる地域交流の場。

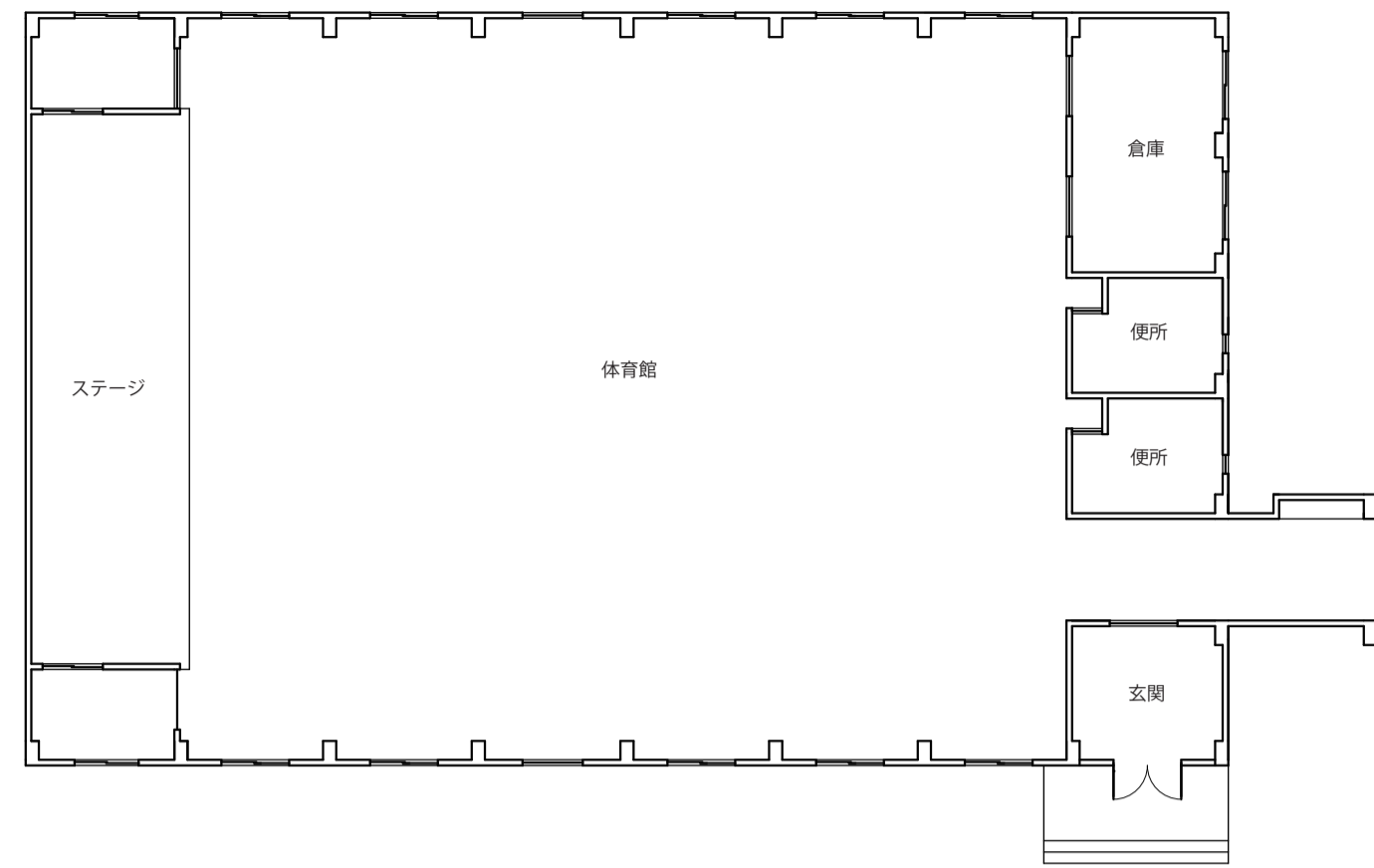
・利用者

高齢者をメインに地域住民であれば誰でも利用可能。

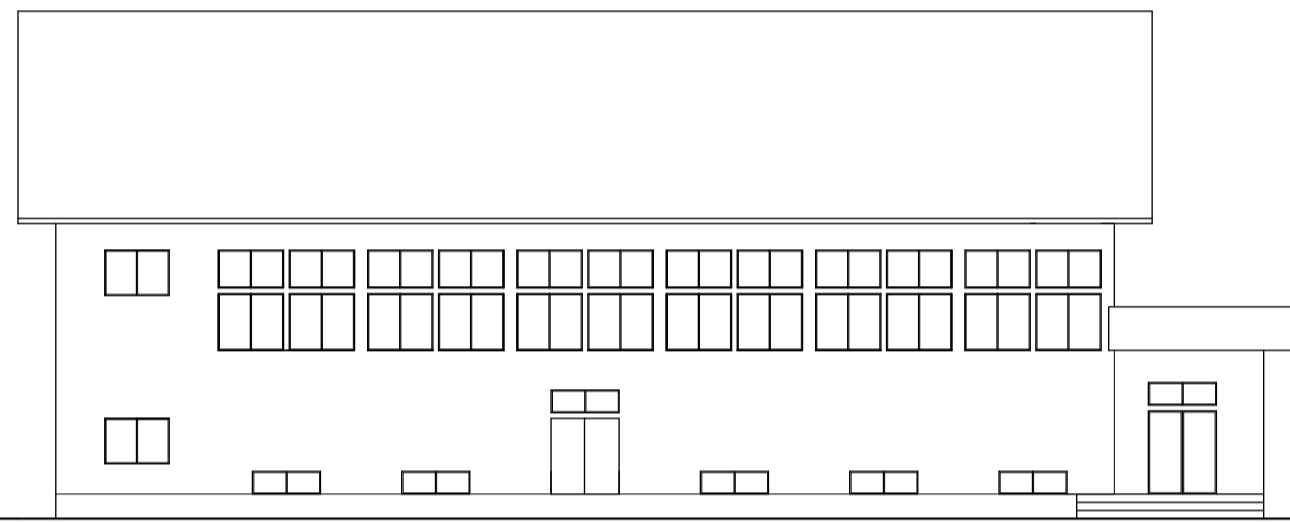
真人町は近所づきあいが残る地域で小さなコミュニティが多くあると考える。しかし、コロナでイベントが中止し大人数が集まる場は減り、住民の交流が減ったと考える。高齢者サロンを通し、大人数で集まれる場所を提供することで大きなコミュニティを再生し、イベント復活の一助になる役割を果たす。空間を広くしたことでイベント等の利用も出来るようにした。



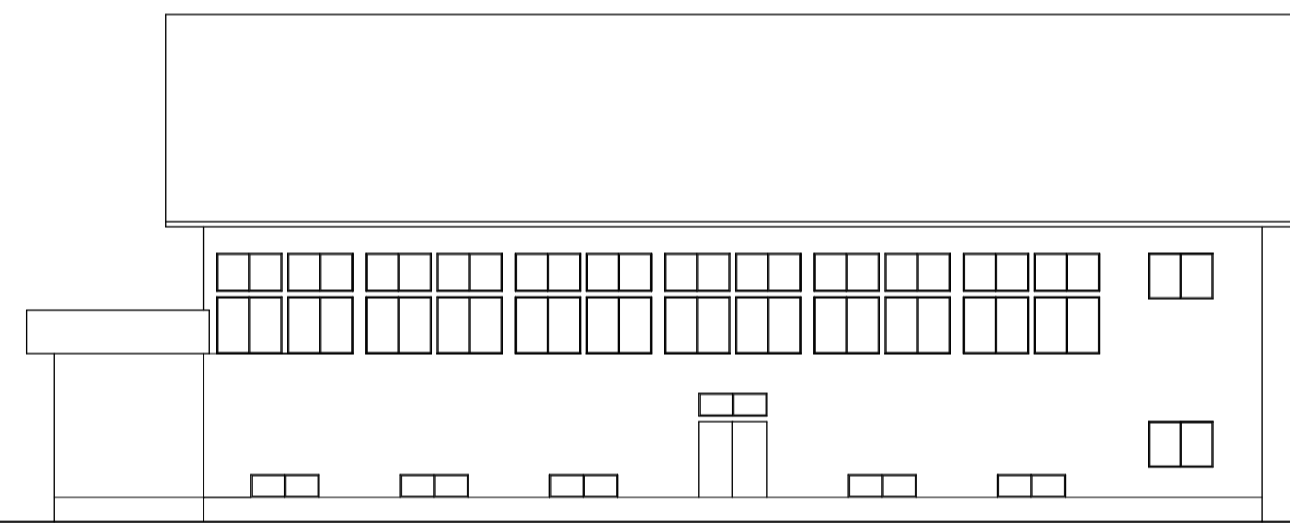
体育館現状図面



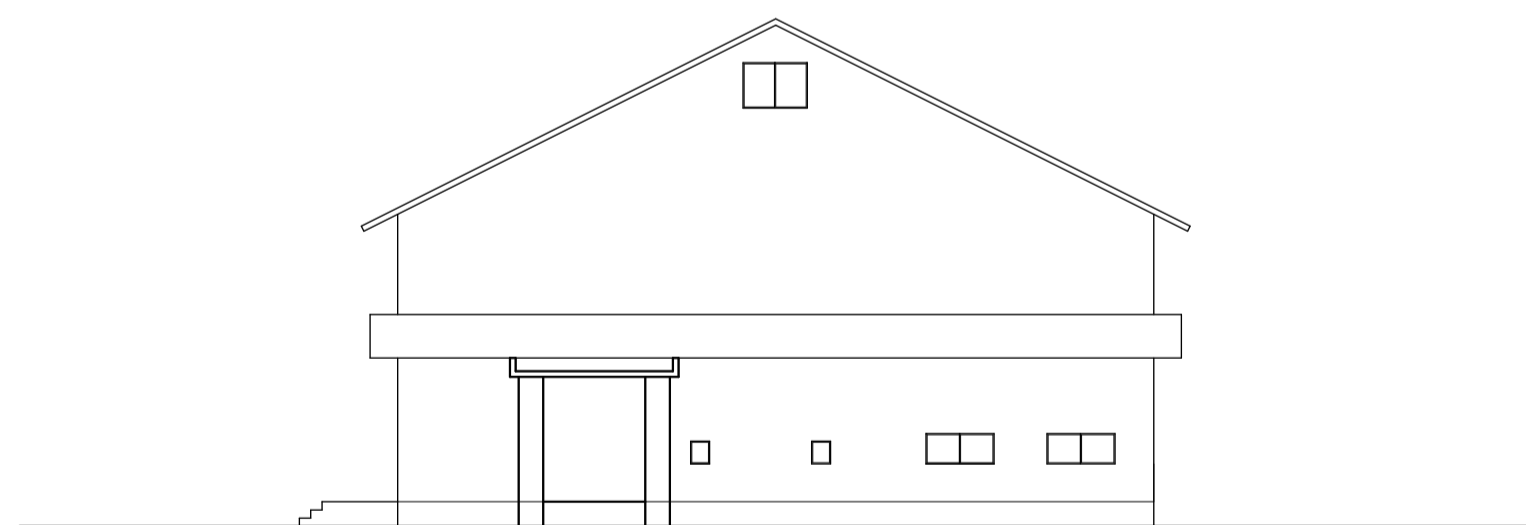
1階平面図 1/200



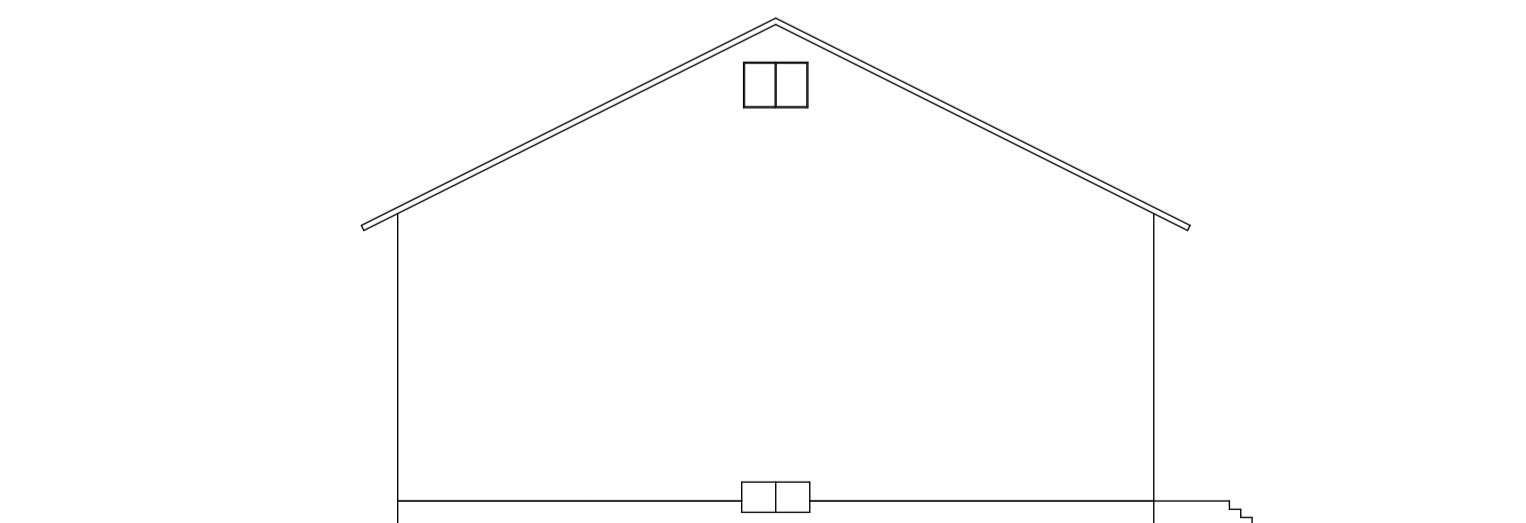
西側立面図 1/200



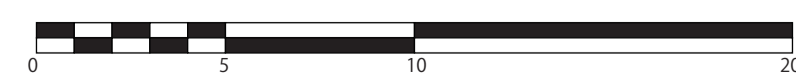
東側立面図 1/200



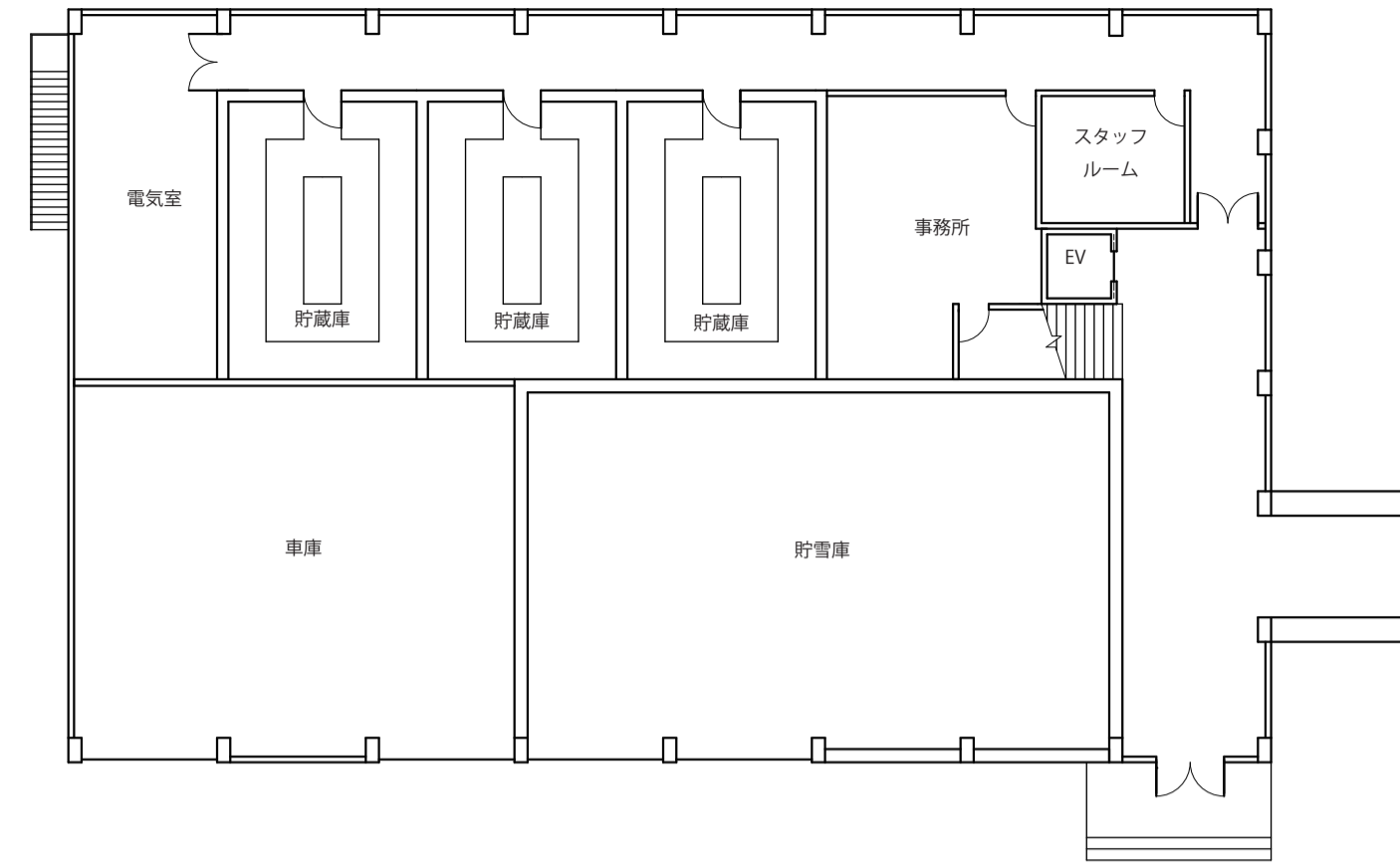
南側立面図 1/200



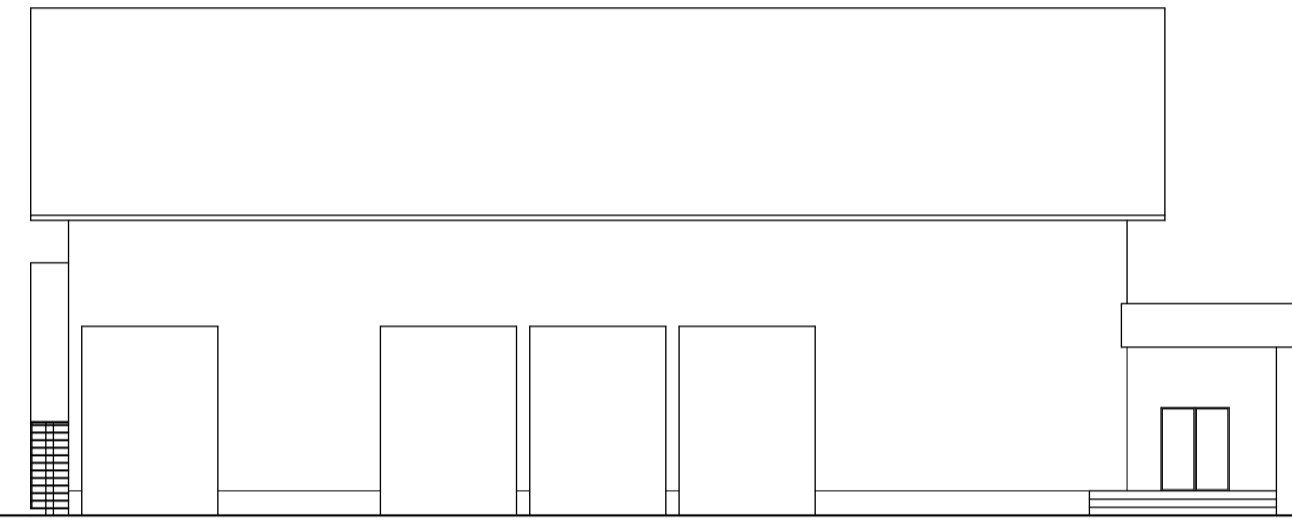
北側立面図 1/200



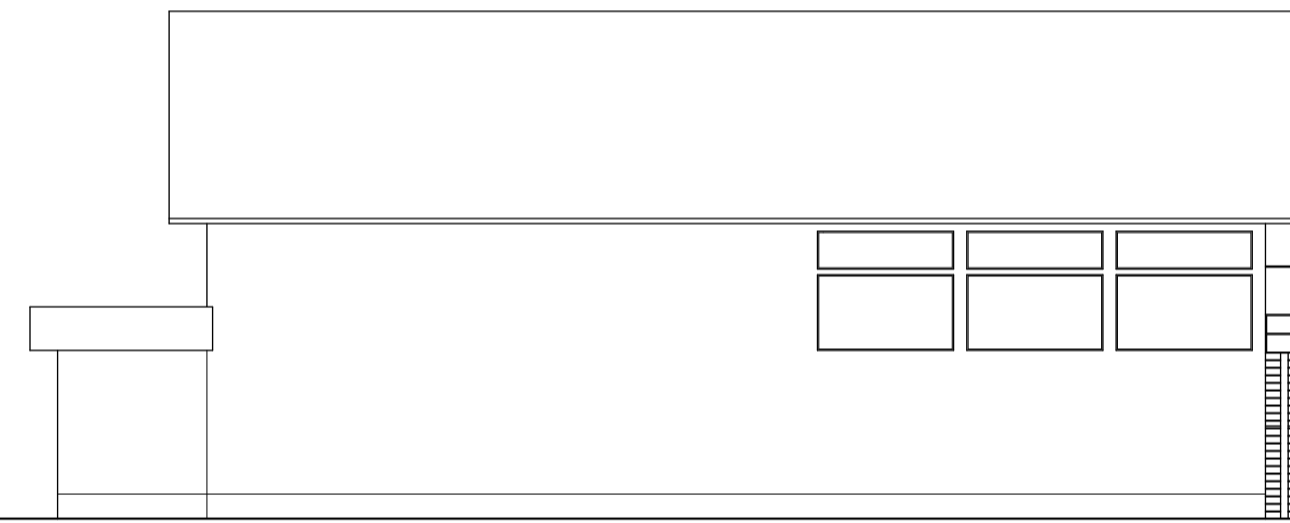
体育館改築後図面



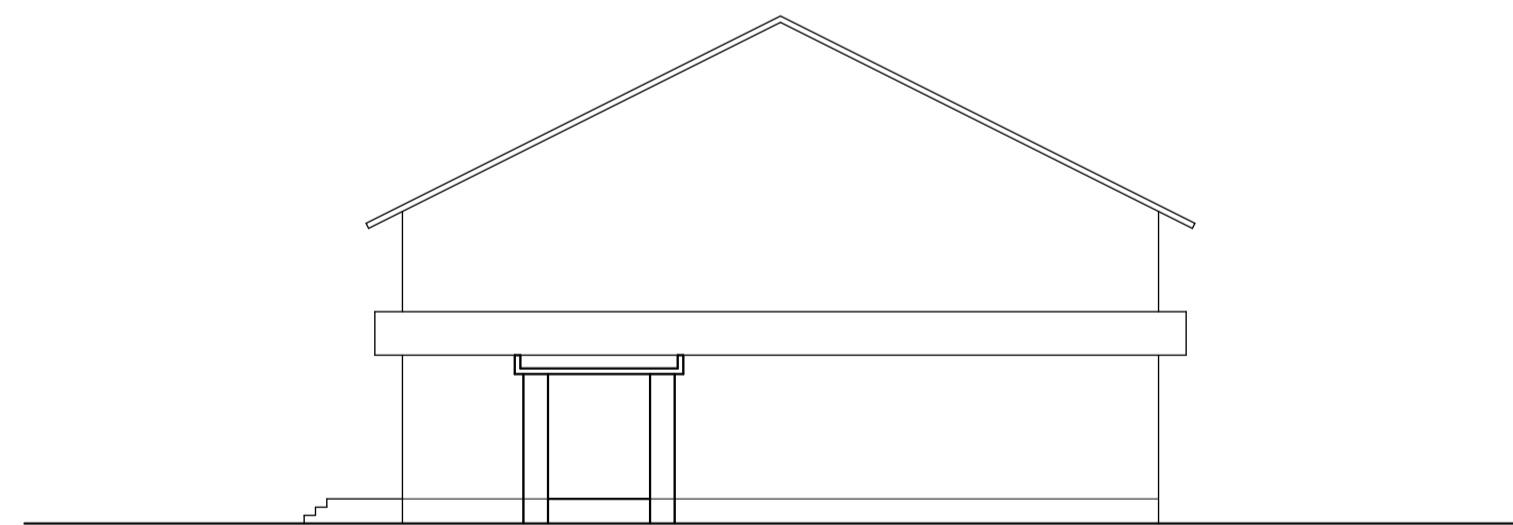
1階平面図 1/200



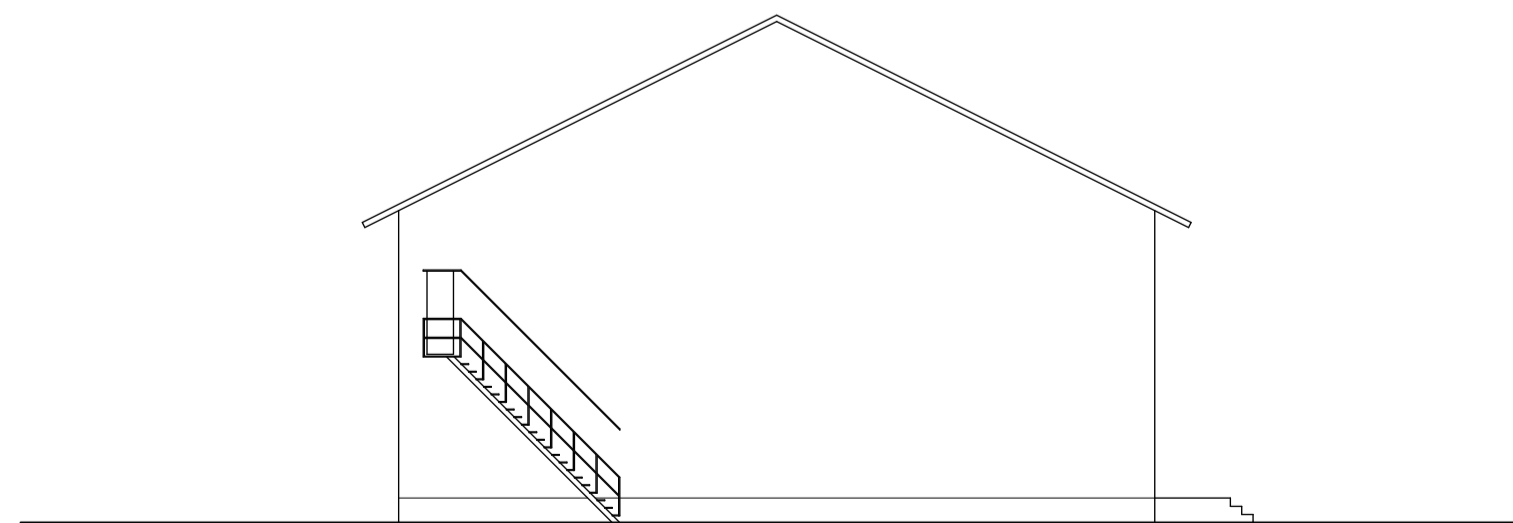
西側立面図 1/200



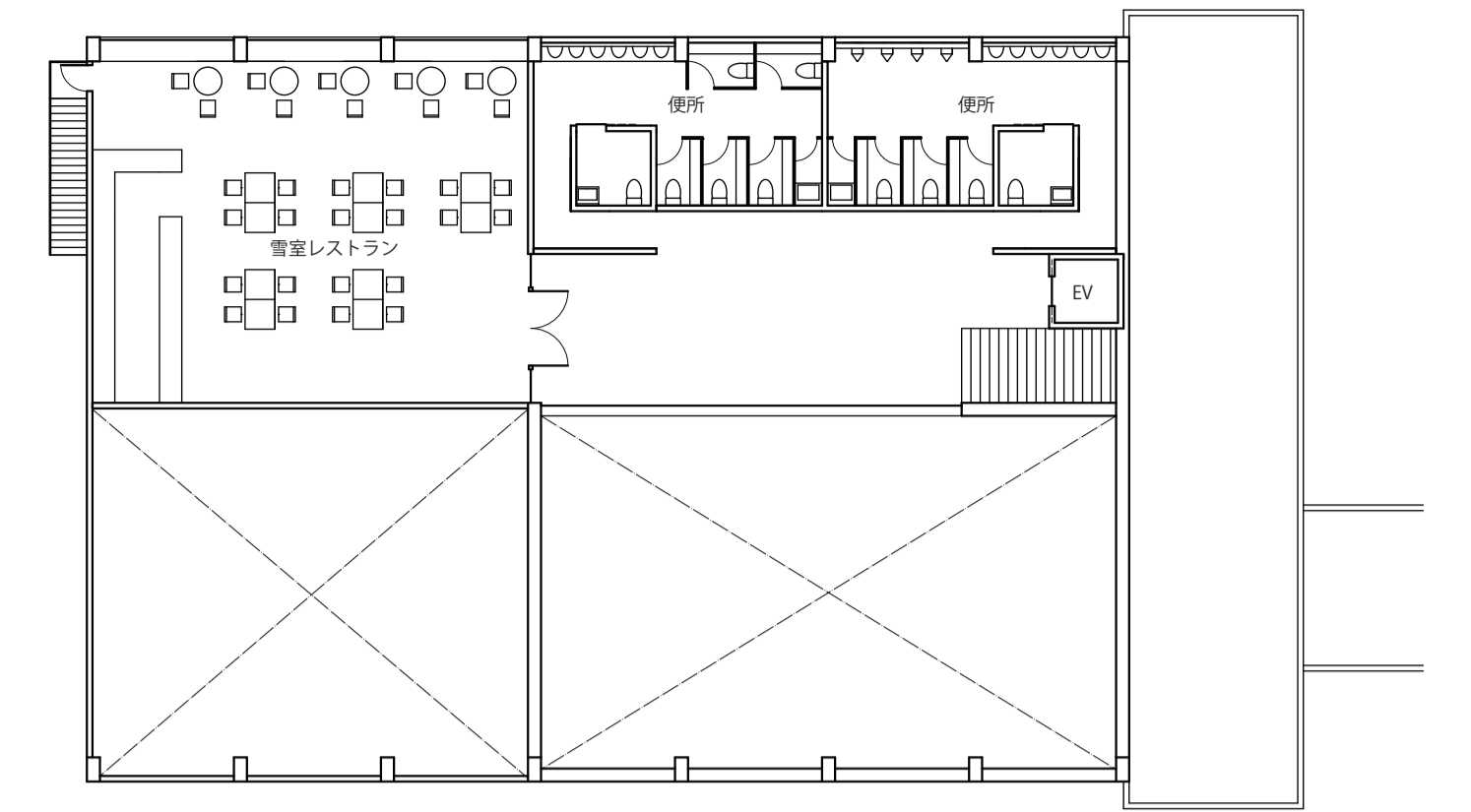
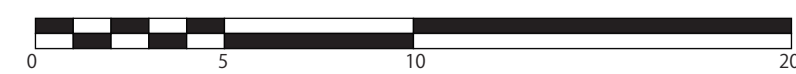
東側立面図 1/200



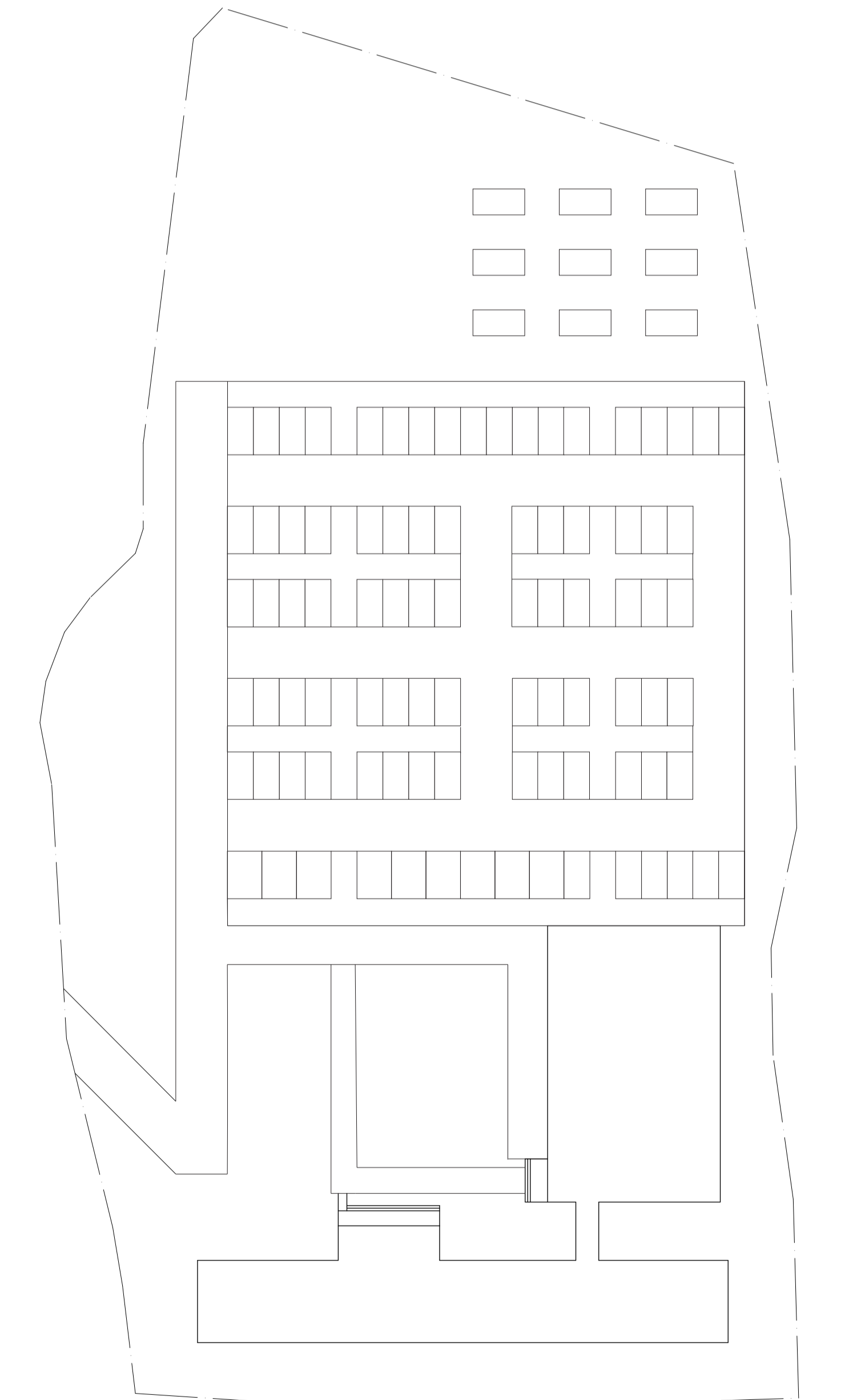
南側立面図 1/200



北側立面図 1/200



2階平面図 1/200



配置図 1/500

